

ごあいさつ



持続可能な県大会をめざして

熊本県図画工作・美術教育研究会
会長 村上 正 祐

本年度、第63回熊本県図画工作・美術教育研究大会 阿蘇・菊池・山鹿ブロック大会が新しい取り組みとして Web 上にて開催されますことに対し、心からお祝いとお喜びを申し上げます。今大会開催にご尽力いただいた、中村浩実行委員長、白石孝裕・鹿子木英樹各副委員長はじめ、研究会全員の皆様のご努力とご貢献に心から感謝申し上げます。また、この大会全般にわたってご指導・ご協力をいただいた阿蘇・山鹿・菊池の各教育委員をはじめ関係諸機関、授業会場等をご提供いただいた小中学校の関係者の皆様に対しまして心からお礼申し上げます。

阿蘇・山鹿・菊池ブロックでは、令和2年度の開催に向けて万全の準備を進められていた矢先、新型コロナウイルス感染症の世界的な感染拡大により1年延期という苦渋の決断をされました。今大会は、このような厳しい状況下にもかかわらず、令和3年度の開催に向けて「造形教育に携わる関係者の学びの場を消してはならない、熊本県の先生方の学びの場を提供したい」という実行委員会の熱い思いによって Web 開催という形で実現されたものです。ここに至るまでには経験したことのない開催や運営の形態を模索し、幾多の課題や困難があったことだと察せられます。中村会長を中心とした実行委員会の方々は、これらの課題の一つひとつ向き合って解決して来られました。実行委員会や研究会全員の熱意なくしては今大会の Web 開催はできなかったと断言できるでしょう。

前大会の令和元年度は、玉名・荒尾ブロックにおいて「つなぐ・つながる造形教育～響き合いを通して～」をテーマに研究発表大会が開かれました。子どもたち同士あるいは教材素材と関わり合う場を響き合う場ととらえ、響き合わせる支援や仕組みを通して、子どもたちが造形的な視点で新たな意味や価値をつくりだすことを目指され、玉名・荒尾の先生方が重ねてこられた研究と実践の成果を惜しみなく披露していただきました。このようにブロックにおける大会開催により脈々と研究の歴史を刻んでいただいております。

阿蘇・菊池・山鹿ブロックは、「つなぐ・つながる造形教育～色・形に思いをのせて～」をテーマに研究を進めてこられました。災害や感染症の拡大、コロナ禍で開催された東京オリンピック・パラリンピックといった社会的状況を踏まえ、自他の豊かな関係の構築や多様性の更なる理解を深めることにおいて図画工作・美術教育の果たす方向を示すべく取り組みを蓄積して来られました。その研究と実践に対して県下の図画工作・美術教育に携わる関係者の期待は大変に大きいものです。

また、熊本県図画工作・美術教育研究会では、コロナ禍や災害などによる集合研修が困難な状況を見据えながら運営のデジタル化を進めております。一つは、夏期造形研修会を昨年度からオンラインにて開催し、コロナ禍においても多くの参加者に学ぶ場を提供しています。もう一つは、本研究会のホームページのリニューアルです。図画工作・美術教育に関係する人々に県下の情報を提供することを主な目的としながら、会員相互の情報交換ができるようなサイトづくりを検討しているところです。今後とも会員の皆様と対話しながら、持続可能な本研究会の運営、県大会の開催をつくり上げ「つなぐ・つながる造形教育」を実現できるようになることを祈念いたします。

最後に、Web 開催に参加された全ての先生方にとって充実した学びになり、今後の各学校・園、各教室における図画工作・美術教育の手がかりとなることを祈念してあいさついたします。